

あきらめない心を育むには

暑い夏休みが終わりました。ロンドンオリンピックを熱く応援された方も多数いらっしゃるでしょう。かくゆう私も夜中、何度かライブで観ながら応援しました。一ひたすらに、まさに血のにじむような努力を続けてきた結果、選ばれて立つことができた舞台。この一度のチャンスにおのれの全てを出し切って闘う—その強く美しい魂を感じて、思わず胸が熱くなりました。そして、ふと、この夏におこなったサマースクールでの一幕を思い出しました。

それは、自由時間におこなった独楽回しでのことです。日本の伝統のおもちゃである独楽は子どもの心身の成長に大変有効です。ひもを巻き付ける時の左右の手の連動に始まり、放り出す時の力、手を離すタイミング、手首使い、膝使い等、学べることを挙げていけばきりがありません。希望者にはやり方を指導し、3種類の大きさの枠の中に投げ入れて回すということを目指にさせました。今回のサマースクールは名東区の田中塾さんとの合同の企画であったため、その塾生さんと当塾の男子のおよそ8人くらいが挑戦しました。

ほとんどの子が独楽回しは初めてです。ひもを巻き付けることもままなりません。まずは30センチ四方の枠の中に投げ入れて回すことが目標。ところが、枠の中どころか、まず独楽そのものが回せません。後ろから手を添えてもらって腕の動かし方、手首、膝の使い方の基本を教わりますが、そう簡単にはいきません。ひたすら各自で練習です。時間をかけてひもを巻いても、投げて失敗すれば一瞬でその苦労も水の泡。回せなければ、「ひも巻き」という、むしろただの地味な作業の繰り返しです。はたしてどこまで集中力が続くのか、フォローをしつつ見守っていましたが、案の定、成功した途端に勝手なやり方でふざけ始める子、1回成功して賞品をもらえばさっさとやめて遊びに行く子など、一人、二人と徐々に離れていきました。

はたして最後まで残って練習し続けたのは当塾の塾生達でした。全員回せるまでになった後も、さらに次の小さな枠にむけての練習を続けたのです。失敗しても、何度も何度もひもを巻いて投げ続けていました。その姿には本当に感服しました。

“あきらめない心”を育むのは、こういう1つ1つの経験の積み重ねだと思います。どんな小さなことでもいいのです。自分の力でやりきったら、その経験が自信につながり、「また次も自分で最後までやりたい。」と思えるようになるのです。他の人が頑張る姿を100回見せるより、頑張った人の感動話を100回聞かせるより、自分の力だけで1回成功させる。大人はそのフォローだけでかまいません。あとは自分でどんどん進んでいく力が子どもにはあるのです。